

学ぶ門には  
福来たる

ダッピー♡  
ニューイヤー

# BMS 1月例会のご案内

—112th Bungeiken Metropolis Seminar—

2025年1月13日(月・祝) 9:30~12:30

## 1. 会場 大東文化会館 K404 研修室(ハイブリッド方式)

(🚗 池袋駅より東武東上線各停で7駅、約15分。「東武練馬」駅下車、徒歩2~4分)

## 2. テーマ 新教材分析・授業シリーズ7弾

「ぼくのブック・ウーマン」(ヘザー・ヘイソン作・藤原宏之訳

光村図書出版6年/さ・え・ら書房)

### 報告: 袴田美香さん(青梅市小学校)

BMS1月例会テーマは、「春風をたどって」「銀色の裏地」「詩 かぼちゃのつるが／われは草なり」「みきのたからもの」「風船でうちゅうへ」に続き新教材分析・授業シリーズ第7弾、「ぼくのブック・ウーマン」を袴田美香さんにお願ひしました。袴田さんの全授業記録報告を基に、本・読書の価値、働く女性への敬意、言葉ではなく行動による説得、ネイティブアメリカンの世界観を読むことはもちろん、全編通して語られる図書館無償の原則と〈ブレゼント〉の意味を追求した実践です。皆様の参加をお待ちしています。

## 3. 参加申込(ハイブリッド方式)リアル参加は先着40名とさせていただきます。

申し込みについては、リアル参加の方も下記ピーティックスからの申し込みをお願いします。リアル参加500円・オンライン参加800円(資料代・システム利用料)

参加申し込みは <https://bms202501-bungei-tokyo.peatix.com/> から一週間前には申し込みができるよう準備をします。

【文芸研東京学習会(BMS)連絡先】上西信夫 ☒ →nobu.uenishi@outlook.jp

次頁 <sup>アホウドリ</sup> 信天翁通信 ↓

## 東京文芸研学習会(BMS・1月例会)のご案内

—112th Bungeiken Metropolis Seminar—



🗨️ 「秩父の夜祭」(ユネスコ無形文化遺産登録) 12月2~3日、6台の笠鉦・山車が繰り出される。日本三大曳山祭(祇園祭・高山祭・秩父夜祭)の一つ

🌍 小春日和の12月1日(日)、12月例会を開催しました。光村版教科書新教材分析シリーズ6弾として、「風船でうちゅうへ」(岩谷圭介 光村小4 説明文)を今夏徳島大会説明文分科会レポートを基に秋山亮介さん(千葉文芸研)が報告しました。冒頭この説明文教材の基本性格—科学的説明文なのか随筆なのか、教訓的な道德教材なのかをめぐって意見交流がありました。あくまでも説明文教材としてことば表現、説得の論法、認識方法を切り口に読み解く可能性を秋山報告から学びました。さらに失敗をさらけ出し、失敗から学ぶ筆者の生き方(トライアンドエラーのプロセス)は、失敗を恐れ、自己肯定感の低い子どもたちの現実に切り込んでいける教材ではないかという指摘もありました。

📖 次回1月例会のテーマは、**新教材授業シリーズ第7弾、「ぼくのブック・ウーマン」**(24年2月例会で教材分析の報告済)の実践報告を袴田美香さんにお願ひしました。袴田さんの勤める青梅市の小学校は8年間文芸研の理論と方法での校内研究を積み上げてきました。袴田さんはその校内研の中心として活躍しています。今回は全授業記録を起こした詳細な授業報告レポートを基に学習を深めたいと思います。ご期待ください。

👤 次回も事務局・西真由子さんのホスト役でハイブリッド方式で行います。リアル参加は先着40名とさせていただきます。申し込みについては、リアル参加の方もオンライン参加

の方も下記ピーティックスからの申し込みをお願いします。

## 記

1. 期 日      2025年1月13日(月・祝) 9時30分～12時30分
2. 会 場      大東文化会館 K404研修室 ハイブリッド方式  
(大東文化会館へのアクセス:板橋区徳丸2-4-21/池袋駅より東武東上線各停で7駅約15分、東武練馬駅下車。どの出口からも徒歩2～4分/学習会会場はK404研修室・40人収容、9時から13時まで借りています。開始・終了時刻が以前より30分遅くなりました。)
3. テーマ     新教材分析・授業シリーズ(7)  
「ぼくのブック・ウーマン」(ヘザー・ハイソン 光村図書出版6年)  
報告:袴田美香さん(青梅市小学校)
4. 主催・参加費・申し込み  
東京文芸研/リアル参加 500円・オンライン参加 800円(資料代・システム利用料)/参加申し込みは <https://bms202501-bungei-tokyo.peatix.com/> から  
(一週間前には申し込みができるように準備をします。問い合わせ 事務局・西さん)

以上

例会後、例会で扱う教材以外の個別の相談にも応じています。事前に連絡をください。カンとセンスとブームの国語の授業から、視点・形象の相関をふまえた切実な共同体験の形成、文芸体験の思想化・典型化の授業づくりをめざします。

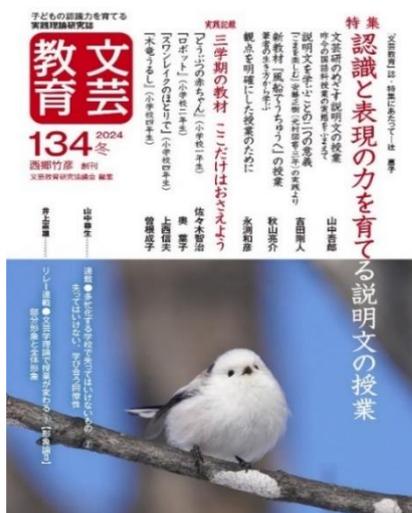
23年の山口大会、24年の徳島大会、「国語の教室」、各地の講座で初めて文芸研の理論と実践に接し興味をもたれた方、国語の授業づくりに困っている方、深い学びをと願っている方、教職をめざしている方、青年学校受講生の方、各地のサークル例会が開催困難なサークル会員の方々……の参加をお待ちしています。

## ①インフォメーション

▼民教連交流研究集会 12月8日(日)10時～16時 和光小(小田急「経堂」駅下車歩12分)参加費1000円 午前・全体会「みんなの願いで学校づくり～奈良教育大付属小のとりのくみ」奈良教育大付属小 入澤佳奈さん/午後・分科会 秋山亮介さん(千葉

文芸研) レポート提案

- ▼文芸研実践研究会 12月26日9時30分~27日17時 神戸市中央区文化センター (神戸市役所隣/三ノ宮駅より徒歩6分) 来夏千葉大会全レポート検討(1)
- ▼18期青年学校学習会 (ハイブリッド方式) 1月11日(土)9時~16時 精華小学校 (横浜市) テーマ: 形象論他 講師: 上西信夫 詳細は文芸研HPをご覧ください。
- ▼八王子文芸研基礎講座 1月17日(金)18時~20時 高嶺小学校 講師: 上西信夫 詳細はHPをご覧ください。
- ▼BMS24年度3学期の予定 会場: 大東文化会館/時間: 9時30分~12時30分  
1月13日(月・祝)「ぼくのブック・ウーマン」報告: 袴田美香さん(青梅市小学校)  
2月2日(日)「スワンレイクのほとりで」報告: 上西信夫(東京文芸研)  
3月2日(日)「学級じまい・学級びらきで読み合いたい詩・絵本」他 報告: 山中吾郎さん(東京文芸研・大東文化大)・西真由子さん(東京文芸研・湘南学園小)
- ▽光村版・**新**教科書指導ハンドブック(学年別)発売中/新読書社より各学年1700円+税 セット割引有/この学年でどんな〈ものの見方・考え方〉を育てるかの観点で編集
- ▽文芸研授業シリーズ好評刊行中! 第1弾「ためきの糸車」(新読書社)・第2弾「一つの花」・第3弾「おおきなかぶ」・第4弾「わらぐつの中の神様」・第5弾新刊「サーカスのライオン」/教材分析と授業構想・授業記録がこの一冊に。板書や発問が参考にできて、使いやすい・わかりやすいと好評。入門書として最適です。各1000円+税



年間定期購読をお願いします。

文芸研の実践理論研究誌 西郷竹彦創刊 文芸研編 新読書社刊

## 「文芸教育」

134号特集「認識と表現の力を育てる説明文の授業」。筆者の読者を相手どった説得の論法を学び、認識方法を駆使して、認識内容に迫る文芸研の説明文指導のあり方を授業の具体を通して明らかにします。最新号・11月刊行 好評発売中

「文芸教育」132号より1700円+税になります。

131号以前のバックナンバーは1500円+税。

### 「朝日歌壇・俳壇」より 子ども・学校・ことば・世相・戦争を詠む

母とケンカした夜ひとりたまご焼き焼きつつ謝る言葉を探す (奈良/山添葵) 葵さんも反抗期

歯をがぬけたところ舌でふれてみるとろんとろんのブラックホール (奈良/山添葵)

どこまでもこのまま走っていけそうな気がするリレーで三人ぬかす (奈良/山添聡介)

さらっさらの秋の空気のにせられて軽いリズムの新しい靴（福井／佐々木祐佳子）

お土産に蛇の抜け殻折りたたみ大喜び持ち帰る孫（和歌山／宮本佳子）財布に入れるとご利益ありと

七歳の孫に「大好き」と言ってみて「ぼくはふつう」と言われてしまう（東京都／舟山由美子）

子の匂い残ったままのお下がりのセーターを着る秋の始まり（市川／をがはまなぶ）

娘の手を引き新郎に預ければ後は黙して飲むだけの父（高崎／嶋田由紀子）

手品終えた我を園児が取り囲む魔法使いの役降りられず（岡崎／三上正）

カニパンとアンパンマンパン好きな子に栗の皮むき栗飯を炊く（東久留米／白井澄江）

図書館で泣き出した児に保育士が小さく強く「ここでは泣かない！」（横浜／田中廣義）

生徒らは「特攻」という演目を中学生らしくさらりと演じる（東京都／尾張英治）

午前中だけの運動会となるコロナの後の戻らないもの（奈良／山添聖子）

姉妹の髪お揃いに結う母の居て哀しみのガザに小さな日常（茨城県／原里江）

不登校 34 万この国は何かおかしい少子化なのに（佐伯／川西敦子）

短冊も品書きもない居酒屋のタッチパネルで頼む湯豆腐（札幌／田巻成男）+ロボットの配膳だと興奮め

一村の絵がけし軍鶏（シャモ）は襖より出でて今にも動きだしそう（岩沼／相澤ゆき）都美術館での田中一村展

原発の被災者たちを励まして涙流しき西田敏行氏逝く（国立／半杭瑩子）投稿氏は福島からの避難者ゆえ

おもしろくて涙もろくて情にもろい人間西田敏行逝きぬ（八王子／額田浩文）

そこここに夫の遺品を目にするもソファの凹（へこ）みが一番愛（いと）し（西宮／松田礼子）凹みの存在感と喪失感が見事

平和賞受賞の記事に吾もまた感慨無量 被爆者なれば（堺／藤野守）

空いている電車に一人立つ女性コントラバスを優しく抱きて（中央／前田良一）

筑豊に「炭坑節」は聞こえねど月が出た出たスーパームーン（嘉麻／野見山弘子）10月17日の満月

人間の遺体食うとぞ戦争の瓦礫の中のガザの犬たち（観音寺／篠原俊則）

額なで頬を両手で包み込むこの世の愛をこうして仕舞う（札幌／伊藤照美）

袴田氏にこのたび届く選挙権われの紙片を尊くしたり（稲沢／伊藤京子）

この先はどうなるのだろう兵庫県初代の知事は伊藤博文（野洲／日比野美鈴）

するすると始まり何度も足とられ湊かなえのトラップ幾重（福岡／東深雪）「告白」「母性」「ユートピア」

「八瀬鱒をたべますとますます痩せます」を吊って走ってた秋の叡電（大和郡山／四方護）八瀬は比叡山口、掛詞が面白いが、ほんまかいな

喜びの無罪判決聞けばふと真犯人の居た恐ろしさ（佐倉／内山明彦）

身一つで終（つい）の住みかに移る今無駄に囲まれた幸福な過去（東京都／鈴木ひろみ）

ヒダンキョウヒバクシャ非核光る秋（東京都中央区／久塚謙一）hi音のくり返しが静かな軽快なりズムを生む

テレビ消ししばしもつてのほかを食ふ（東京都江東区／原千弘）もつてのほか食用菊

ピカソの絵目鼻ちぐはぐなる意味を教えてくれし『名画を見る眼』（八尾／水野一也）

そんな眼をもちたいものと思ひしは高階さんの「名画を見る眼」（逗子／織立敏博）美術評論家・高階秀爾 10月17日逝去

まろき文字よし拓本を軸にして掛ける牧水秋ぐさのうた（新潟／太田千鶴子）かたはらに秋ぐさの花かたるら

くほろぼしものはなつかしきかな（小諸古城跡地で若山牧水）  
もっともっと殺しまっせとネタリヤフいのちを商うごとくに言えり（水戸／中原千絵子）  
映画館、銭湯、駄菓子屋、鶏舎消え虚しき言葉「地方創生」（観音寺／篠原俊則）「地方早逝」だ  
ハンバーガー齧（かじ）りてふつと目が合ひし監視カメラの銃口めきぬ（津／館謙太郎）  
通したい人よりむしろ落とした人が際立つ今度の選挙（岡山／伊藤次郎）  
候補者は具体の言葉を遠ざけて一番聞きたいことを語らず（東京都／十亀弘史）  
さよならは左様ならばとけふ知りぬ亡妻（つま）と吾とは無言の別れ（仙台／二瓶真）  
物忘れ探し物続くいつの日か私が私でなくなる不安（八王子／藤原弘子）  
濡れ衣を五十八年着し人に謝罪す五十七歳本部長（加東／藤原明）  
ケーニヒスベルクの七つの橋思い出町の橋から作戦立てる（大和郡山／四方護）ケーニヒスベルクは、元プロ  
シャ（現ロシアの飛地）の都市。ケーニヒスベルクの七つの橋を同じ道を一度しか通らないで、全部渡ることができる  
かという問題が有名。数学者・オイラーがこの伝説的な話の中に重要な数学上の主題が含まれていることに着目したエ  
ピソード。「はじめてであうすうがくの絵本3」（安野光雅 福音館書店）に詳しい。安野氏は元明星学園美術教師  
ドネーションのために髪伸ばす男（お）の子いて街のピアノで夜想曲（ノクターン）弾く（オランダ／宮沢洋子）  
伴天連（パテレン）は大夕焼けにハライソを見て渡りたるこの五島灘（西海／前田一揆）ハライソ天国のこと  
おどおどと障害者の声聞いていた若き記者さんの記事温かし（関／武藤修）  
天災も労働も厳しかったはずなのに温和な埴輪たちの顔（東京都／上田結香）円るい口開けた顔。国博での「は  
にわ」特別展。都美術館では田中一村展、上野の森は芸術の秋酣（たけなわ）  
別姓の二人並んで菊枕（厚木／奈良握）菊枕は長寿の枕と註。誰も迷惑しない夫婦別姓早く認めるしかない  
「死神です」「爛つめますか」良夜です（八幡／小笠原信）島根県邑南町の加茂福酒造の芳醇旨口の酒。60石し  
か造られない知る人ぞ知る人気銘柄。  
酒好きに古酒も新酒もなかりけり（神戸／岸下庄二）  
闇バイト、裏金などしか浮かばない流行語大賞今年の候補（西海／前田一揆）  
北朝鮮兵十八人が脱走と聞けば目に浮かぶロシアの曠野（福島／釋正宏）  
食べ物が廃棄をさるる国で見る皿を差し出す無数の腕（かいな）（鹿嶋／大熊佳世子）  
親子五人揺れる雨戸を押さえてた台風銀座と呼ばれし頃は（薩摩川内／川野雄一）  
かたつむり庭石に上り動かない億万年の夢を見る渦（岐阜／後藤進）  
珠洲焼の二重被災の職人ら火入れ成し遂げ窯場湧き立つ（石川県／瀧上裕幸）  
鹿と兎の切手貼りたす葉書なり秋風寒く霜月に入る（つくば／橋本美知子）はがき63円から85円に値上げ。  
鹿は20円切手、兎は2円切手。手持ちの古葉書に足して用をたす。値上げラッシュに寒さが堪える。  
銀行の顔認証にエラー出て「わたしは誰？」と思ふ一瞬（諏訪／矢崎義人）  
直葬（じきさう）といふ新しき弔ひがコロナのうちに市民権得る（横浜／西前敦子）直葬：通夜や告別式を行  
わず火葬だけ行う新しい葬儀の形と註  
憧れの店の紙袋引っ提げてひっぴっぴつと坂道のぼる（東京都／井上智景）  
スマホをば須磨浦と書き来る友のあり無聊（ぶれう）をかこつ源氏に合ふとや（名古屋／前川勝彦）須磨の  
海辺に流罪となって退屈して嘆く光源氏ことを考えた友のユーモアと註

寅さんもハマちゃんも居ぬ令和笑ふ日の減り不安の日は増す（加東／藤原明）

ささくれし言の葉かなし文化の日（東京都練馬区／吉竹純）

朝刊のはや焼餅（やきいも）の包み紙（神戸／栗山恵子）

魁（さきがけ）も殿（しんがり）なく秋終る（和歌山県由良町／藤田昌幸）お尻の「髻」から「殿」を充てる

## アホウドリ 信天翁の身辺雑感

🌈 11月16日（土）、恒例の「常三小の会」があり松戸市常盤平の鮎店・金太楼に駆けつけた。名前のまんま松戸市立常盤平第三小学校で働いた仲間たちの会である。常三小には1991年から2003年まで12年間お世話になった。（筆者42歳から53歳のとき）サークル先輩の加藤憲一先生（当時大東文化大教授）を講師に国語の授業づくりを研究の中心に据えて、子どもをまん中にした学校づくり、合意形成を大事にした民主的学校づくりのために奮闘した同志の会である。会メンバー15名で（学校づくりの中で組合員拡大も）、校内人事や出張所や市教委の行政訪問にも反対して闘った戦友である。その分会活動は全教の組合機関紙にも2度紹介された。文芸研大会にも多くの仲間がツアーを組んで参加してくれた。33・41・48回東京大会には実行委員として支えてくれたり、プレ集会は常三小体育館をいっぱいにする講演会（松谷みよ子、工藤直子、西郷竹彦）を組織してくれた面々である。この日は民舞研や音楽教育の会で活躍したAさんが死去されたことも報告され冒頭献杯を捧げた。退職後も再任用、サークル活動、地域で寺小屋（学習サポート・教育相談）や子ども食堂の活動、社会変革運動、趣味の追求とますます意気軒昂なシルバー民主主義バナー軍団である。

🌈 巨星墮つ。谷川俊太郎さん11月13日逝去92歳 朝日新聞毎月1回連載「どこから言葉が」の詩が自らの最期を予見するかのような最近の作品が気になっていた矢先、18日訃報が飛び込んできた。朝日新聞11月20日1面トップ+3面トップ+「天声人語」、+21日社説で伝える。朝日の1面トップの文化人訃報は大江健三郎さん以来の扱いかも。文芸研大会での今江祥智さんや西郷先生との対談、明星学園公開研での講演を思い出す。

🌈 11月23日、明星学園公開研。半年前から宮沢賢治をやろうと話し合いを始め、「やまなし」（授業者：淘江正仁さん）と「注文の多い料理店」（授業者：松園悠介さん）に絞り込み、西郷竹彦著「宮沢賢治『やまなし』の世界」、宮沢賢治『二相ゆらぎの世界』、山中吾郎著『『やまなし』の授業』、松山幸路・徳島大会レポート「注文の多い料理店」から学び学習を重ねてきた。当日は山中さん（ゼミ生4名を同行）・西さん・長谷川さん・石山さん・袴田さん・原田さんら東京サークル+BMS関係からと、辻さん・曽根さんら千葉サークルの面々も駆けつけてくれた。ICT化、スタンダード化で教師から授業構想力が奪われつつある中で、自主教材選定から1からの授業づくりへの挑戦、形象の相関・全一性を読み豊かな文芸体験の交流の「詳細な読み」の授業における子どもたちの姿は参加者の共感を得ることとなった。千葉大会全体会「公開授業」で淘江さんの「やまなし」を報告の予定。

## BMS 会場案内



大東文化会館

大東文化大・板橋キャンパスとお間違いなく



大東文化会館へのアクセス：池袋駅より東武東上線各停で7駅（約15分）、東武練馬駅（大東文化大学前）下車。どの出口からも徒歩2~4分／学習会会場はK404 研修室（40人収容）、9時から13時まで借りています。（山中吾郎さんに尽力いただき、12月1日（日） 1月13日（月・祝日） 2月2日（日） 3月2日（日）まで予約済み。今から予定に入れてください。開始・終了時刻が以前より30分遅くなりました。）エデュカス東京（麹町）より大東文化会館までの所要時間がかかる方もいると思いますが、学習会充実のため引き続きリアル参加にご協力ください。



紅葉狩り①平林寺の紅葉（新座市）広大な境内を彩る紅葉と野火止用水が有名



紅葉狩り②杉並区荻窪駅近く区立「大黒田公園」



「大黒田公園」の紅葉 この日も結婚式の撮り出しカップルの撮影をしていた

 **世田谷ボロ市**  代官餅 **12月15・16日**  
**/1月15・16日 東急世田谷線「上町」**  
**下車 掘り出し物が見つかるかも…** 



紅葉狩り③都立「殿ヶ谷戸庭園」(国分寺駅近く) 三菱財閥の江口・岩崎家の別荘跡



紅葉狩り④都立「六義園」の紅葉(文京区巣鴨駅近く) 柳沢吉保別荘「回遊式築山泉水庭園」

📍 **千葉くん**④ チーバくんは千葉県のマスコットキャラクター。くまモン、ひこにゃんほど有名ではないけれど…。

## 2025 年文芸研第 59 回大会は **千葉**大会

8 月 2(土)・3(日)日 柏市周辺の会場を確保中

参加＋実行委員としてお力添いをお願いします。



### 千葉県の文芸研サークル史

「文芸教育」107 号特集「文芸研半世紀の歴史を振り返る」で加藤憲一氏による千葉文芸研の歴史によると一。

📍 千葉県での文芸研運動は、1966 年千葉県教育研究会（千教研）柏支会での西郷竹彦「ごんぎつね」講演会から始まった。視点論に感銘した柏二小の篠宮善一校長が、1968 年西郷氏を指導者として招き、柏二小で芽を出し大きく成長し始めた。1970 年柏六小に異動した篠宮氏を追って、加藤憲一・若王子淑子・関次男・畠中まり子らが集い共同研究が始まる。

📍 1971 年以降、永測定・植村允俊・加藤の三人は東葛文芸研を立ち上げる。（75 年より千葉文芸研に改称）70・80 年代千葉では、柏サークル（日向野敬子ら）、鎌ヶ谷サークル（小林美栄子・鈴木小百合ら）、千葉かぶの会（西郷由美子・芦屋牧人ら）、船橋文芸研（谷口明・中村龍一）が精力的に活動を展開する。📍 78 年加藤洋子は子育てのさ中でも学習要求を叶えるために自宅を開放して松戸文芸研を立ち上げる。80 年代、加藤宅での月 2 回の例会に集う足立久子・勅使河原良子・小山章文・尾崎妙子・上西信夫・辻恵子、90 年代の長屋留美子・曾根成子らが青年学校にも参加し、4 度の東京大会（82 年・98 年・06 年 13 年）を関東のサークル・会員、大東文化大加藤ゼミ生（小倉隆志・倉富寿史・大箸毅・川口美保・秋山亮介）・後任の山中吾郎ゼミ生と担うことになる。📍 千葉文芸研が産声を上げた東葛の地で 59 回大会を開催するようになったのはある意味必然でもあり感慨深い。篠宮善一→加藤憲一・洋子→上西・辻恵子・曾根成子・長屋留美子・今井まき子・小松小百合・山中吾郎→…と繋いできた文芸研の灯を秋山亮介・沼澤賢・綿引亮介・佐藤容子らに引き継いでいく大会でもある。

（📍 東葛地方とは東葛飾地方の略。江戸川を挟んで西側は東京都葛飾区一寅が産湯を浸かった柴又・こち亀の亀有公園前派出所・キャプテン翼の舞台の葛飾。東葛は千葉県の北西部一松戸・柏・流山・我孫子・野田・鎌ヶ谷市を指す。）

2024 年も「<sup>アホウドリ</sup>信天翁通信」にお付き合いいただきありがとうございました。「じゃあね」👋

📍 文芸研東京学習会(BMS)連絡先 上西信夫

✉ → [nobu.uenishi@outlook.jp](mailto:nobu.uenishi@outlook.jp)

📱 → SMS 080-3253-4742

学習会で扱う教材希望がありましたら上西までメールでご連絡ください

# 第59回文芸研大会・千葉大会

大会テーマ:ものの見方・考え方を育てる国語教育(仮)/主催:文芸教育研究協議会

1次案内

**期日** 2025年8月2(土)・3(日)日

**会場** 全体会:スターツおおたかの森ホール(流山市)

つくばエクスプレス・東武アーバンパークライン「おおたかの森」駅北口4分

分科会:さわやかちば県民プラザ他(予定)

つくばエクスプレス「柏の葉」駅/常磐線・東武線「柏」駅より東武バス

**内容** 1日目・全体会(9時15分~16時30分)

基調提案/公開授業・シンポジウム/馬頭琴演奏 <sup>m i h o</sup>美炎さん/実践報告/

記念講演 荻上チキさん (交流会 18時~20時・ホテルルミエールグランテ)



1981年生まれ 評論家・編集者  
メディア論を中心に政治経済、社会問題、文化現象まで幅広く論じる。主な出演番組TV「サンデーモーニング」「ニュース23クロス」ラジオ「荻上チキsession」など  
著書「ウェブ炎上」他多数

**2日目・分科会**(午前午後の2部制 9時15分~16時30分)

【1. 午前 領域別分科会】

- ①詩の授業 ②説明文の授業 ③作文 ④絵本 ⑤文芸学
- ⑥ものの見方・考え方 ⑦特別支援学級の国語の授業

【2. 午後 学年別分科会】

- ①小1「スイミー」 ②小2「かさこじぞう」 ③小3「モチモチの木」
- ④小4「ごんぎつね」 ⑤小5「大造じいさんとガン」 ⑥小6「海のいのち」
- ⑦中・高「夏の葬列」

■参加費 4000円/参加申込 5月中旬より「文芸研」HPから

第59回文芸研  千葉大会実行委員会連絡先

秋山亮介(080-3210-6358/chakky511@gmail.com)